

審議会等の会議の記録

会 議 の 名 称	第2回伊勢崎市水道事業経営戦略等検討委員会
開 催 日 時	令和7年11月14日(金) 10時30分～11時55分
開 催 場 所	伊勢崎市上下水道局庁舎 会議室
出 席 者 氏 名	<p>[委員] 熊倉委員長、前田副委員長、赤木委員、須藤委員、茂木委員、栗田委員、中田委員</p> <p>[事務局] 柳澤上下水道局長、土屋総務課長、後藤上水道整備課長、中山浄水課長、上山水道計画係長、高橋工務係長、糸井総務係長、小保方経理係長、三上経理係長、南波料金係長、根岸主査</p> <p>[受注者] 株式会社 利根設計事務所</p>
傍 聴 人 数	0名
会 議 の 議 題	<p>1. 将来の給水人口、有収水量、給水収益の見通し</p> <p>2. 水道事業を取り巻く社会情勢の変化と今後の課題</p> <p>3. 水道事業の収支と投資・財政計画</p>
会 議 資 料 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 伊勢崎市水道事業経営戦略等検討委員会 委員名簿 ・ 席次表 ・ 資料1「12市の水道料金比較表」 ・ 資料2「12市の管路経年化率・管路更新率」 ・ 資料3「水道事業の今後の見通し」
会 議 に お け る 議 事 の 経 過 及 び 発 言 の 要 旨	<p>【第2回検討委員会】</p> <p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局から資料1から資料3に基づき説明 <p>【質問・意見】</p> <p>委員長：資料が膨大なので、一つ一つ疑問点を確認していきたい。 前提として、伊勢崎市は他市より料金改定が早く、給水人口の減少率も低い、今後は料金改定が避けられない見通しとなっている。その中で料金改定率と企業債のバランスを議論し、市民や議会の合意を得ていく必要がある。</p> <p>委員：水量の将来の見通しについて、業務用・工場用の水量が1割減の見込みの根拠は何か。</p> <p>受注者：時系列分析に基づき、直近の実績を反映した予測となって</p>

	<p>いる。特定企業の動向は反映されていない。</p> <p>委員長：大規模な工場展開の情報があるが、折り込み済みか。</p> <p>事務局：本市の水道水だけではなく、群馬県の工業用水や井戸水を使用する可能性もあり、予測には含んでいない。</p> <p>委員長：そうすると、予測よりも上振れする可能性もある。</p> <p>これまでの実績の中で生活用や業務用に対して工場用の減り方は率的にはほとんど平行か、それともかなり違っているか。</p> <p>受注者：10年間で比較した場合には、それほど大きな変化がない推計にはなっている。</p> <p>委員長：そのまま推移してくれるといい。全国的な傾向としてはどうか。</p> <p>委員：トレンドはほぼ全国で同じ。人口減少していないのは唯一東京都ぐらい。そういう意味では、ここの見通しを低めにとったほうがいいのかなとも思う。でも、今の実績が上振れしているということであれば、このままでもよいかなと思う。</p> <p>委員長：予測よりも使用水量が上振れしているなら、本市においては水道料金改定をもっと抑えられるのでは、という意見が出たときに、予測よりは上振れしているものの減少傾向にはあるということを委員会としても納得しておく必要がある。</p> <p>委員：上振れしているからこそ、という説明になるのかなと思う。</p> <p>副委員長：物価高騰等と、人口減少が予想よりも低かった部分が相殺されて、まだ良かっただけの話に思う。</p> <p>委員長：次に、社会情勢の変化や物価高騰等の問題について。特に水道管については単価が3年間で30%も上昇しているのは大きい。</p> <p>副委員長：3年間で30%上昇というのはその他も同様か</p> <p>委員：施工単価も35%上がっているので大体3割ぐらい。国の建設物価指数が確か33%くらいという数字で大体3割増えているんじゃないかなと思う。</p> <p>副委員長：円安が要因か。</p> <p>委員：複合的なものだと思う。スクラップ価格、鉄鋼なので円安の影響があり、人件費高と、燃料費高も影響を及ぼしている。</p> <p>例えば5年間とか10年間で、これが元に戻る見込みはないのかなというところ。</p> <p>委員長：費用の部分は同じような趨勢で上がると見ているのか、止まっていると見ているのか、若干上がると見ているのか。</p> <p>事務局：費用については内閣府『中長期の経済財政に関する試算』に基づいて上昇を見込んでいるが、令和9年度以降は横ばいという形で試算している。</p> <p>委員長：次に、それに基づいての収支のパターンについて。今後、資金が足りなくなってくる部分について、料金改定率を高めることによって対応するか、企業債の借入を多くすることによって対応するのかということで、パターンを示してあるがいかがか。</p> <p>委員：料金改定は避けられないとしても、高齢者や一人暮らし世帯、料金支払いが困難な方々が今後、暮らしやすくしてい</p>
--	--

	<p>くにはどうすればいいか考えている。</p> <p>委員長：福祉政策として、一市民としてどう暮らしていけるかというのは、水道事業だけではなく考えなければいけないと思う。</p> <p>委員：水道管が劣化して水が噴き出さないように頑張ってもらいたい。それで料金を若干上げてもしようがないと思う。</p> <p>委員長：その中でどういう料金改定率にするか。一回で一気にいく形にするのか、3年単位ぐらいで段階的に上げるのかなど、次回から見ていきたい。</p> <p>委員：ここ何年かの実績として企業債充当率がどのぐらいなのか。</p> <p>事務局：直近5年間は充当率60%となっている。</p> <p>委員：借金するとその支払利息も増えていくので、バランスよくやっていただければと思う。</p> <p>委員：今、全国的にあちこちで水道管が破裂して、漏水が発生している。下水道ではあるが、八潮市では復旧には300億円かかるという話もある。皆さん危機感をものすごく持っていると思う。現状を維持していくには料金を上げるしかないので、急に上げるか、なだらかにかという選択肢だけだと思う。経費削減状況も出したらよい。</p> <p>委員長：市民の皆さんにお金を出していただく以上、厳しい状況の中で努力をしているということも次回にはぜひ示してほしい。今、わかるものがあるか。</p> <p>事務局：漏水の話も委員さんの方からあったが、本市では、管路更新率は令和元年度は0.69%令和4年度は1.16%、物価高騰等の影響もあって令和6年度が0.81%の更新率となっていて、管路の更新について順次行っている。</p> <p>委員長：資料によると伊勢崎市の更新状況は良いほうだとわかった。</p> <p>今度は金利の問題について説明をいただきたい。</p> <p>副委員長：金利の方が徐々に上がってきている。10年国債が今1.7%ぐらいだったかと思う。市で企業債を借り入れる際の利率は何%か。</p> <p>事務局：令和6年度実績で1.1%となっている。</p> <p>副委員長：直近だともう少し高いと思う。</p> <p>事務局：借入先が国のものは1.1%で、民間借入だともう少し上がる。</p> <p>副委員長：今後の動きからすると、金利が上がる可能性もあるのかなと思う。総合的に考えれば、企業債の負担を重くするのはちょっと危険だと思う。その辺のところも勘案しながら、料金改定は考えていかざるを得ない。</p> <p>委員長：それをきちんと「料金改定と福祉政策面の両輪で考えろ」ということを言わなければいけないと思っている。</p> <p>委員：例えば緩やかに上げるのか、一気に上げるのかというところで、そのことをまた考えたい。</p> <p>委員長：水道事業は公営企業会計として独立採算制の中で運営していく必要があるが、市民の皆さんの中でハンディキャップを様々持っている方に対しては、市としての政策を同時並行してほしいということは、報告書として我々は上げなければいけないと思う。</p>
--	---

	<p>委員：管路更新率を何％で見込んでいるのか。</p> <p>事務局：前回の経営戦略では平均値で１．２％から１．３％を見込んでいる。</p> <p>委員：浄水場・配水池などの水道を配る一番上流の施設、そここの耐震化費用が計画に盛り込まれているか。</p> <p>事務局：これまでに２つの配水池・貯水槽を耐震補強や新設をして対応した。今後の１０年間では、使用される配水場２か所について耐震化の補強もしくは造り替えによる耐震化を図る予定となっている。</p> <p>委員長：全ての配水池で耐震化が終わるということか。</p> <p>事務局：全てを耐震化していくのには莫大な費用がかかるので、地震発生時に水が止まらないようにするということを目標にして耐震化を進めていく。</p> <p>委員：国に提出された計画に沿って事業費が試算されているという理解でよいか。</p> <p>事務局：はい。</p> <p>委員：前回の説明の中で企業債残高が１２０億円台という話があったが、そことの関係はどうなのか。また、企業債に対する色々な見方はあるが、将来的に残高をコントロールできる見通しがないのであれば良くないと思う。企業債残高をコントロールしていくためには、これぐらいは料金改定が必要だというものを出した方がいいと思う。</p> <p>事務局：次回は充当率や起債残高も考慮した試算を行う予定となっている。</p> <p>委員：率の試算と同時に、時期を分けたパターンとかを見せて欲しい。</p> <p>委員長：市民の皆さんは、上げざるを得ないというのはわかるが、それが企業会計として健全なものになる上げ幅はどの程度なのか、話をしないといけない。黒字体質とまでいかないにしても、それに向かう形での市民合意と経営戦略にしていく必要がある。</p>
3	その他
4	閉会